

## 平成28年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成29年5月9日

代表者 松永 修一

研究課題名	地域言語・文化を用いた Civic Pride に関する研究
研究期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日
共同研究者	星野 祐子
1. 今年度の研究概要	
<p>明治から100年の間に急激な人口増加、そして現在、人口オーナス期にある日本では、少子高齢化・人口減による社会に仕組み自体の変化を余儀なくされている。「参加なくして未来無し」、かつてのような、右肩上がりの経済状況は期待できない社会では、今までのあたりまえを前提とせず、おまかせ民主主義からの脱却が必要となる。社会の課題を解決するために、モノのカタチだけでなく社会の仕組みや組織の在り方などを含めてデザインするという考え方が重要となる。</p> <p>地域づくりにおいても、地域言語・文化といった最も親和性の高いものを地域の帰属意識を高めるための核となるツールとして使っていくことも有効であろう。</p> <p>本研究では、ここ数年の中で地域づくりのイノベーションに成功した、あるいは現在変化しつつある地域を臨地調査し、併せて、様々な事例をメディアの中から抽出し分析することを試みた。一方、九州や離島でのまちづくりの現状を実際のまちづくりのワークショップに参加することで課題や、解決の手法を身につけるといったことを目標にした。</p> <p>また、これらの中から、地域が求めているサポートモデルを探し、まちづくりや地域再生のコミュニティ作りに必要な Civic Pride の醸成に役立つ実践的なアイデアや手法をまとめ、大学が地域に提案するためのノウハウの蓄積と基礎的研究を目指した。</p>	
2. 研究の成果	
<p>地域づくりの成功事例としては愛媛県八幡浜地区、宇和島地区の5地点を訪ね、持続可能な地域を目指す活動を観察、またそれぞれの地域の方々から説明をお聞きした。</p> <p>ワークショップ・対話による母文化・母言語の再発見のための調査は、奄美大島・宮崎県下の7地点で試行した。調査は、談話資料として利用できるように記録し、次年度の分析の基礎資料として利用できるように、タグ付けを行った。</p> <p>地域づくりの実践的研究では、埼玉県小川町で3回にわたり高年層中心のワークショップ、若年層と高年層との対話によるワークショップ、3世代（高年層・中年層、若年層）でのワークショップを行った。また、終了時にはアンケート調査を行った。</p> <p>高年層と若年層のコミュニティをつなぐことが、新たな地域コミュニティ再生という問題解決の肝であろうという仮説を立てていたが、中年層女性（20歳代のお母さんあるいは姑となる世代）の帰属意識の希薄化が著しいという、新たな問題の存在に気づくことができた。地域社会での女性の置かれる立場と意識の改善も併せて必要であり、伝統的な行事に男性のサポートとして参加するだけでなく、女性主体の「楽しく」と「正しい」のバランスを考えたワクワクするプロジェクトの創造が、課題解決の鍵ではないかと考え、次年度の実験の課題として試行してみたい。</p>	

### 3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

#### 【国際学会発表】

AJE ヨーロッパ日本語教育シンポジウム「大学における地域貢献と PBL 型日本語教育の実践研究」、ヴェネチア・フォスカリ大学（国際学会発表）2016.7

【国際学会発表】 The fourth meeting of the New Ways of Analyzing Variation in Asia-Pacific (NWAV-AP 4) conference 「Conducting Research on the Geographical Linguistics by Utilizing the Data Comprising Twitter Postings」台湾、国立中正大学、2016.6

#### 【発表（国内）】

日本農村生活学会「女子大学生と地域住民との協働による地域づくりの試みーサステナビリティーとシチズンプライドー」十文字学園女子大学、2016.10

#### 【シンポジウム開催】

宮崎県都城市教育委員会主催

「地域文化・地域言語を用いた地域づくりの可能性を考える」2017.3 都城市コミュニティーセンター

## 平成 28 年度(2016 年) 研究概要

研究所・部門	プロジェクト研究
研究課題名	地域言語・文化を用いた Civic Pride に関する研究
研究代表者	松永 修一
研究期間	平成 28 年 5 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日
共同研究者	星野 祐子

## 1. 研究成果取組状況

## (1) 国内外の学会発表

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	招待講演
発表済	AJE ヨーロッパ日本語教育シンポジウム「大学における地域貢献と PBL 型日本語教育の実践研究」、ヴェネチア・フォスカリ大学 (国際学会発表)2016.7  日本農村生活学会「女子大学生と地域住民との協働による地域づくりの試みーサステナビリティーとシチズンプライドー」十文字学園女子大学、2016.10	
発表予定		

## (2) 雑誌論文(学内紀要含む)

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	査読有無
投稿済		
投稿中 投稿予定		

(3) 図書等の出版

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所
出版済	
出版予定	

(4) シンポジウム・講演会等の開催

状況	主催者名・協賛社名等, 講演(発表タイトル), 実施年月日, 実施場所
開催済	宮崎県都城市教育委員会主催 「地域文化・地域言語を用いた地域づくりの可能性を考える」2017.3 都城市 コミュニティーセンター
開催予定	

(5) 本研究に関連して本学経費以外に支援を得た補助金など

年度	機関・財団名, 事業名, 課題名